

ブラームス: 5つの歌曲 作品 71

H. S.

2017.05.20-

目次

全曲の概要	1
第 1 曲 春は優しい恋の季節 (Es liebt sich so lieblich im Lenz)	2
第 2 曲 月に寄せて (An den Mond)	3
第 3 曲 秘め事 (Geheimnis)	4
第 4 曲 私に行って欲しいの? (Willst du, daß ich geh'?)	4
第 5 曲 愛の歌 (Minnelied)	5
演奏と録音	6
参考文献	6

全曲の概要

本歌曲集は 1877 年 3 月に Wien で作曲された [1][4]. 出版は同年 7 月から 8 月にかけて, 作品 69 から作品 72 までの歌曲シリーズとして Simrock 社から [6]. 交響曲第 1 番の初演が 1876 年 11 月で, Brahms が Simrock へ交響曲の楽譜を送付したのが 1877 年 5 月であるから, 交響曲第 1 番の改訂の最中に作曲されたことになる. なお, 後述するように第 1 曲「春は優しい恋の季節」の一節が交響曲第 2 番 (1877 年夏に作曲された) に顔を出す.

前後の歌曲集 (作品 70, 作品 72) が数年に渡って作曲された歌曲の集まりである (1877 年に作曲されたものが大部分だが) こと [2] と比較すると, この歌曲集はごく短期間にまとまって作られたものであると言える. 内容的にもこの 5 曲はすべて恋愛事を題材としている.

この歌曲集のなかで最も有名な第 5 曲「愛の歌」は Ludwig Höltz (1748–1776) の詩によっており, 同じ詩に対して Schubert や Mendelssohn も作曲している. また, Karl Candidus (1817–1872) による第 3 曲「秘め事」も絶妙な音楽的効果のために評価が高い. なお, Clara Schumann が本歌曲集に関して Brahms に感想を述べた手紙が現在まで残っている [5].

第1曲 春は優しい恋の季節 (Es liebt sich so lieblich im Lenze)

Es liebt sich so lieblich im Lenze

Heinrich Heine (1797–1856)

Die Wellen blinken und fließen dahin,
es liebt sich so lieblich im Lenze!
Am Flusse sitzt die Schäferin
Und windet die zärtlichsten Kränze.

波しぶきは輝きながら流れ去っていきます
春には愛はひとときわ愛らしいのです！
羊飼いの女の子が川縁に座りながら
愛情込めて花輪を編んでいます

Das knospet und quillt und duftet und blüht,
Es liebt sich so lieblich im Lenze!
Die Schäferin seufzt aus tiefer Brust:
"Wem geb' ich meine Kränze?"

蕾が芽生え、香りだし、花が咲く
春には愛はひとときわ愛らしいのです！
その女の子が胸の奥からため息をつきます
「誰に私の花輪を差し上げましょうか？」

Ein Reiter reitet den Fluß entlang,
er grüßet so blühenden Mutes,
die Schäferin schaut ihm nach so bang,
fern flattert die Feder des Hutes.

一人の男性が川沿いに乗馬しながら
女の子の方に澆漈と挨拶をします
女の子は彼の方を気にして眺めていると
遠くで帽子の羽がはたはたと揺れました

Sie weint und wirft in den gleitenden Fluß
die schönen Blumenkränze.
Die Nachtigall singt von Lieb' und Kuß
es liebt sich so lieblich im Lenze!

女の子は泣きながら投げ入れてしまいました
流れゆく川面に、その美しい花の環を
小夜啼鳥は愛と接吻について歌います
春には愛はひとときわ愛らしいのです！

Heinrich Heine の詩による可愛らしい歌曲である。本作のテキストの出典は「新詩集」(Neue Gedichte, 1844 年) の"Romanzen" 節に含まれる 23 の詩のうち第 13 番「春」(Frühling) である^{*1}[7]。この詩自体の作詞は 1839 年とされている。なお, Brahms は Heine の詩にわずか 6 曲しか作曲していない: 他の歌曲はいずれもこの作品より後期のもので、作品 85-1, 作品 85-2, 作品 96-1, 作品 96-3, 作品 96-4 である。

有節歌曲形式を下敷きになっているが、第 3 句および第 4 句は自由に変奏されている。特に第 3 句では嬰へ長調へと移り、馬の蹄のリズムが三連符で表現される。それ以外は概してピアノパートは流れるような音型が続き、留まることのない川の流れや煌きを思わせる。対する歌唱は民謡風で、シンプルかつ歯切れが良い。また、カデンツを除いて属和音が回避される傾向にあり、春の穏やかな陽気を醸し出している。

原調は二長調、4 分の 4 拍子であるが、ピアノの序奏が強拍を避けて開始する上に歌唱もアウフタクトで

^{*1} Charles Stanford もこの詩に作曲している (作品 4-4)。

始まるため、やや拍子を取りにくい (譜例 1).

Anmutig bewegt

譜例 1: 作品 71-1 冒頭

既に指摘したように、本作は Brahms が交響曲第 2 番で引用している点が特筆される。その第 1 楽章第 502 小節からのフルートの旋律 (譜例 3) は、(基本動機 D-Cis-D から導き出されているとはいえ) 作品 71-1 の第 10 小節の動き (譜例 2) とまったく同じである。Brahms は自身の手元の交響曲の出版譜にその事実を書き込んでいる。

10

譜例 2: 作品 71-1 第 10 小節から

実際、本歌曲「春は優しい恋の季節」の描写する空気感は問題の交響曲を満たしているものでもある (やや前者の方が軽いか)。これは Brahms が交響曲第 2 番を作曲するにあたって南オーストリアの Pörtlach を避暑地を選んでおり、当地の森や湖の美しさに影響されたからと解釈されている。Brahms は Billroth への手紙の中で「湖上にて」作品 59-1 の一節を引用して Pörtlach を称えている。他にも、第 1 楽章第 2 主題が有名な「子守歌」作品 49-4 とよく似た節回しである等、交響曲第 2 番と Brahms の歌曲との関係性は特に顕著なものとなっている。

502

譜例 3: 交響曲第 2 番第 1 楽章第 502 小節からの Fl

第 2 曲 月に寄せて (An den Mond)

Silbermond, mit bleichen Strahlen
 pflegst du Wald und Feld zu malen,
 gibst den Bergen, gibst den Talen
 der Empfindung Seufzer ein.

Sei Vertrauter meiner Schmerzen,
Segler in der Lüfte See:
Sag' ihr, die ich trag' im Herzen,
wie mich tötet Liebesweh.

Sag' ihr, über tausend Meilen
sehne sich mein Herz nach ihr.
"Keine Ferne kann es heilen,
nur ein holder Blick von dir."

Sag' ihr, daß zu Tod getroffen
diese Hülle bald zerfällt;
nur ein schmeichlerisches Hoffen
sei's, das sie zusammenhält.

第3曲 秘め事 (Geheimnis)

O Frühlings-Abenddämmerung!
O laues, lindes Wehn!
Ihr Blütenbäume, sprecht, was tut
Ihr so zusammenstehn?

Vertraut ihr das Geheimnis euch
Von unsrer Liebe süß?
Was flüstert ihr einander zu
Von unsrer Liebe süß?

第4曲 私に行って欲しいの? (Willst du, daß ich geh'?)

Auf der Heide weht der Wind,
Herzig Kind, herzig Kind,
Willst du, daß trotz Sturm und Graus
In die Nacht ich muß hinaus?
Willst du, daß ich geh'?

Auf der Heid' zu Bergeshöh'
Treibt der Schnee, treibt der Schnee;
Feget Straßen, Schlucht und Teich

Mit den weißen Flügeln gleich.
Willst du, daß ich geh'?

Horch, wie klingt' s herauf vom See
Wild und weh, wild und weh!
An den Weiden sitzt die Fei,
Und mein Weg geht dort vorbei.
Willst du, daß ich geh'?

Wie ist's hier in deinem Arm
Traut und warm, traut und warm;
Ach, wie oft hab' ich gedacht:
So bei dir nur eine Nacht.
Willst du, daß ich geh'?

第5曲 愛の歌 (Minnelied)

Holder klingt der Vogelsang,
Wenn die Engelreine,
Die mein Jünglingsherz bezwang,
Wandelt durch die Haine.

Röter blühen Tal und Au,
Grüner wird der Wasen,
Wo die Finger meiner Frau
Maienblumen lasen.

Ohne sie ist alles tot,
Welk sind Blüt' und Kräuter;
Und kein Frühlingsabendrot
Dünkt mir schön und heiter.

Traute, minnigliche Frau,
Wollest nimmer fliehen;
Daß mein Herz, gleich dieser Au,
Mög' in Wonne blühen!

演奏と録音

この歌曲集全曲を通して聴くことができる音源としては以下のものがある。いずれも作品 69 から作品 72 までの一連の歌曲をすべて含んでいる。

- Fischer-Dieskau, Norman, Barenboim (Deutsche Grammophon) ([Amazon.co.jp](#))
- Banse, Schmidt, Deutsch (CPO) ([NML](#), [Amazon.co.jp](#))
- Walt, Spencer (Ars Musici) ([NML](#), [Amazon.co.jp](#))

これらの歌曲の器楽編曲の典型的な例として、第 5 曲のチェロ編曲版 (Mischa Maisky) を挙げておく。

- Maisky, Gililov (Deutsche Grammophon) ([NML](#), [Amazon.co.jp](#))

参考文献

- [1] 「作曲家別名曲解説ライブラリー ブラームス」音楽之友社 (1993)
- [2] 志田 麓 訳「ブラームス・リーダー対訳全集」新潮社 (1980) 解説 原田 茂生
- [3] 西原 稔「作曲家 人と作品シリーズ ブラームス」音楽之友社 (2006)
- [4] 三宅 幸夫「ブラームス」新潮文庫 (1986)
- [5] ベルホルト・リッツマン編 (編訳：原田 光子)「クララ・シューマン ヨハネス・ブラームス 友情の書簡」みすず書房 (2012)
- [6] 「ブラームス・コンプリート・エディション 6 - 歌曲集 (バンゼ／シュミット／ドイツ)」(CPO) のブックレット ([NML](#))
- [7] The LiederNet Archive ([第 1 曲](#), [第 2 曲](#), [第 3 曲](#), [第 4 曲](#), [第 5 曲](#))